The Japanese Geotechnical Society

北陸支部活動の紹介

1. はじめに

支部の活動を紹介する支部ネットのコーナーが学会誌「土と基礎」に新しく開設され，ついに我が北陸支部の順番が回ってきた。「土と基礎」の編集委員をしており，支部事務局も勤務先の大学に設置されているという恵まれた環境にあるため，今回は私が執筆を引き受けることになった。内容は第1回なので支部の紹介ということにしたいが，私は北陸支部に入ってからまだ2年目の若輩者である。支部の幹事にもなっているため責任を持って原稿作成にあたらなければならないのは重々承知であるが，第三者的立場からの執筆になってしまうことをお許し願いたい。

2. 支部の組織

北陸支部は，新潟，富山，石川の3県からなり，平成8年10月7日現在で特別会員53社，個人会員491名であり，他の支部と比べるとかなり小さな支部であるという印象を受ける。支部役員（支部長1名，副支部長4名，顧問21名，評議員16名，幹事長1名，幹事長代理1名，幹事51名）には学校関係，官公庁関係，企業の方々から幅広くなっていただいており，会員の多種多様なニーズに応えられるよう幹事会や役員会で幅広い討論が行えるように考慮してある。実際の活動は新潟と金沢の2地区に分かれて，それぞれが責任を持って行うことが多く，長岡技術科学大学環境・建設系内に設置されている事務局でとりまとめを行うことになっている。事務局は基本的にボランティアで行うことが多く，忙しいときのみアルバイトを雇っている。

3. 活動内容

先に述べたとおり北陸支部はそれぞれの地区での活動によって成り立っているが，ここではその活動内容を簡単に説明したいと思う。**表—1**に過去5年間の活動内容と回数をまとめておく。

表—1　支部活動の内容

活動項目	内　容
役員会等	年に総会1回，役員会1回，幹事会2～5回程度。
シンポジウム等	テーマを設定し講師を招く。年に3回程度。
講演会および講習会	幅広い話題を選択。年に5～6回開催。
見学会	地すべり，工事現場など。年に2～4回程度。
その他	特別行事のための委員会。随時設置。

3.1 シンポジウム等の開催

毎年2回地盤工学最新情報コロキアムが金沢地区で開催され，毎回テーマを設定し，それに関して数名の方々に講演していただいた後，活発な討論を行っている。毎回出席者は50名を越え，非常に好評である。参考までに**表—2**に過去6回分のテーマを掲載しておく。

表—2　地盤工学最新情報コロキアムのテーマ

開催日	テーマ	参加者数
H5. 9	環境と文化の調和	62
H5.11	白山甚之助谷地すべりの実体	77
H6. 9	ジオシンセティックスを用いた補強土工法	115
H6.11	建設災害	60
H7. 4	工事中のトラブルおよびその事故の処理事例	50
H7.11	うん十年にわたる技術的研鑽のつみかさね…の事例報告	58

また地すべり学会新潟支部との共催で新潟地区において毎年1回地すべりシンポジウムを開催している。このシンポジウムには地盤工学会と地すべり学会の会員をあわせると，100名を越える方々に参加いただいている。シンポジウムの後は懇親会も準備され，学会の枠を越え親睦を深めることができ，情報収集および交換の場として利用できる。

そのほか，支部で研究委員会が設置されたときはシンポジウムを開催するようにしている。

3.2 講演会等の開催

毎年5件程度講演会や講習会を開催している。金沢地区においては「北陸の地質・土質にかかわる調査・設計・工事者の実務報告会」と大テーマを設けて行い，新潟地区では毎回違ったテーマを設定している。支部会員の方が興味を持ってくれるように最近問題にあがることの多い話題やこの地域独特の話題などをよく吟味して企画検討するようにしており，支部会員の方には奮って参加していただきたい行事である。

3.3 見学会

北陸地方は地すべりをはじめとする自然災害の多い地方であり，被害現場はもとより，対策，復旧現場が多数存在し，この見学会は支部の活動の中でもほかに誇れるものであると考えている。当然各地域の会員の要望に応えるため，最新の工事関連の見学会や大規模実験の見学会も積極的に取り入れている。

本年度の例を挙げると，まず8月に平成7年7.11水害による姫川および国道148号線の被害および復旧状況の

NII-Electronic Library Service

The Japanese Geotechnical Society

見学会を行った。1年遅れての見学ではあるが，今年も大雨により新たな被害が起こるなど，厳しい状況の下での復旧作業が見学できた。この水害は北陸支部の方々にとっては印象深いものであろう。なぜなら奇しくもこの日，北陸支部が支援した全国大会が金沢で開催されていたからである。土砂崩れ，土石流，護岸決壊や鉄道橋桁流出等により，道路および鉄道も大きな被害を受け，足留めを食らった会員の方も多くおられたことでしょう。当時の支部長であった小川正二先生（現長岡工業高等専門学校校長）も会場到着が大幅に遅れてしまい（最終日のみ），大会本部では大慌てしたものです。この見学会は，私にとって全国大会での慌てた当時の様子が鮮明に思い出されるとともに，改めて被害の大きさが再確認できた印象深い見学会であった。また10月には金沢地区においてジオシンセティックスを用いた補強盛土の実物大模型実験という非常に興味深い実験の見学会が3日間行われ，これも大変好評であった（**写真―1**）。

写真―1　実物大模型実験の見学

そのほか，地すべり学会新潟支部と共催で毎年1回現地検討会が行われ，北陸地区の地すべり地を見学している。この見学会は，初日に参加者全員で現場を歩いて見学し，夜は懇親会で親睦を深め，2日目に討論会を行うかたちを取っている。この検討会で用意されるテキストを北陸支部では100部程度買い取り，事務局で保管し，現地検討会に出席できなくても会員の要望があれば応えられるようにしている。**表―3**に過去6年間に現地検討会を行った場所を示しておく。

表―3　現地検討会開催場所

開催日	地すべり地	参加者数
H2.10	沖見地区地すべり	115
H3.10	八幡地すべり	79
H4. 9	水梨地すべり	115
H5. 9	糸魚川市青ぬけ地区	130
H6. 9	宇津俣地すべり防止地区	120
H7.11	東田尻地すべり	70

これらの見学会は，日程調整が遅れてしまい「土と基礎」の会告に掲載できない場合も数多く見受けられる。全国の会員の方にも参加していただくためにも，これからはできるだけ早く日程調整を行って，支部以外の会員の皆さまにも十分な情報の提供を心がけたい。

3.4　その他

平成4年度と5年度には第三紀層斜面安定に関する研究委員会およびワーキンググループを設置するなど，地域性のある活発な研究活動にも力を入れている。また必要に応じて特別行事（全国大会など）のための委員会も設置される。今年度は青木滋先生（新潟大学名誉教授・元地盤工学会副会長）の退官記念事業の一環として，北陸支部より先生の長年にわたる北陸地方での研究活動や貴重なデータをまとめた出版物を出す予定である。

4. 私の目から見た北陸支部

これまで北陸支部の代表的な活動について説明してきたが，ここでは私が北陸支部について思うところを書いてみようと思う。

前にも述べたとおり北陸支部の活動計画の案は幹事会で決定し，実際の活動は新潟地区と金沢地区のそれぞれで責任を持って行うようにしている。つまり支部の活動はそれぞれの地区の活動から成り立っているといえる。このシステムにより，より地域に密着した活動が可能になり，かつ北陸地方全体の正確な情報が多く得られると考えている。残念なことは北陸支部を形成する3県の内，富山県だけ地区活動がないことである。これは富山県に土木系の学校がないためであるが，官公庁や企業の方に中心になっていただき，地区活動を発足させたいものである。他の支部から比べると小さい支部であるが，その分仲間意識が強く，非常によい雰囲気の中で協力しあって活動していくことができており，地元の問題なら直ちに情報収集できる体制が整っていると思う。

もう一つ北陸支部のよいところを挙げると，地すべり学会新潟支部や新潟応用地質研究会などに代表される他学会と親密に協力し合っているところである。これらの学会は専門を地質とする人が多く，問題への着目の仕方は我々と全く違う面もあるが，我々も新たな目で現象を眺められるようになるという利点もある。今後もこの関係は継続させ，お互い有効に利用して行くべきである。

5. おわりに

この原稿執筆にあたって支部の活動を調べているうちに，皆さんが非常に熱心に取り組んでこられたのが理解できた反面，定期的な事業だけでなく全く新しい活動を考えてみてもいい時期にきていると感じた。例えば北陸支部だけでの独立した活動でなく，他の支部と交流もできるような体制の構築はできないものであろうか。幹事会を中心に真剣に考えていきたいものである。私も北陸支部が活発な活動を繰り広げるために努力したい次第である。

最後に，北陸支部に関するご意見やご要望等がありましたら，北陸支部事務局にお寄せください。参考にさせていただきたいと思います。

（文責：豊田浩史　長岡技術科学大学環境・建設系）

（原稿受理　1996.10.31）

NII-Electronic Library Service